

		音楽研究会		部会記録	
日時	平成29年10月4日				
部会名	歌唱部会		主任	押江 恵 (丸山台小)	
参加数	25名	司会	原山 史子 (三ツ境)	記録	向井 清佳 (鶴ヶ峯小)
研究内容	研究部テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方 歌唱部会テーマ：子どもが歌う喜びを感じながら、主体的に表現の高まりをめざしていく歌唱活動 研究仮説：魅力的な教材との出会いを大切に、互いに表現のよさを聴き合い、学び合うことで、どの子どもも歌う喜びを感じながら、表現力を高めることができる。				
	<p>1 研究授業構想に沿った実践提案</p> <p>① 提案者 波切 良太 (川島小)</p> <p>第6学年 学習の主題「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」 中心教材「あすという日が」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組むために、曲の中の好きな部分を付箋に書き、拡大歌詞に張り出し見える化を図った。また、教師による伴奏を行ったことで、子供達にも教師の取り組み姿勢が伝わり、より一層意欲を高めることができた。 ・1時に合唱するところまで学習を進めたが、「もっときれいに歌いたい。」「もっと遠くへ声を届けたい。」と次時への課題が残った。 ・3時には、A・B・Cの部分ごとにグループで表現の工夫を考え、発表した。教師の「何で？」という問い返しもあり、思いを深めて表現に生かすことができた。曲自体が魅力的で子どもが意欲的に取り組み、声量も増していた。しかし、3時間で合唱に仕上げるのは難しく、「もうちょっと歌えた。」「この音程をもう少し知りたかった。」という思いが残ってしまったので、4時間扱いにしてもよいと感じた。 <p>② 提案者 谷田部 康代 (南台小) 中心教材「あすという日が」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歌が好きな児童は多いが、この曲は知らなかった。作詞者の思いや広まった経緯を話し、楽曲に興味をもたせた。 ・2時までに合唱に仕上がったクラスと、仕上がらなかったクラスとがあり、3時の内容がクラスによって変わってしまった。しかし、3時に合唱を仕上げたクラスでは、3時の後半に曲想について思いを記入し、ワークシートを回収したことで、子ども一人ひとりの思いを見取ることができ、4時のグループ学習の際の支援に役立てることができよかった。3時間で学習を終えたクラスでも、「もう少し。」という思いが残ってしまったので、4時間扱いにできるならその方がよいと感じた。 ・A・B・C各グループの工夫を発表し、残りの2グループにやってもらうことで、表現が高まると共に達成感にもつながった。 <p>2 指導案検討</p> <p>第6学年 学習の主題「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」</p> <p>中心教材「あすという日が」 作詞／山本櫻子 作曲／八木澤教司</p> <p>①提案者 仁田峠 洋子 (荏田南小)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想から揺さぶりをかけ、主体的な表現の工夫へとつなげたい。 ・実践提案を受けて、4時間扱いに変更する(本時は第4時)。2、3時に重なり方の特徴を見つけながら、合唱を仕上げる。3時の終わりにA・B・Cのグループを希望をもとに担任と相談して分ける。 ・4時 グループごとに表現の工夫を考え、発表し、他のグループの人にも同じように工夫して歌ってもらえる喜びと、みんなで合わせる楽しさを味わわせたい。強弱記号は付けたままとし、作者の意図を汲み取りながら表現の工夫をさせる。 				

- m f (やや強く)、f (強く) だけではなく、どんな f にしたいのか具体的なイメージを言語化できるような学習を積み重ねている。

②研究協議

- 具体的なイメージを表現するための技能が合わせて考えられると歌声が変わってくるので、技能面の工夫までできるよう支援していく方がよい。
- 歌詞の意味やリズムの変化など、細かく楽曲分析されているが、子どもたちの主体的な表現の工夫へと導くためには、A・B・Cそれぞれの部分で何を表現させたいか絞っておいたほうがよい。

例えば A…休符とリズム感

B…ユニゾンの部分の気持ちと追いかける部分の効果

C…ハーモニーからの広がり

- グループごとにそれぞれの部分だけの工夫を考えると、全体が見えにくくなってくる。そのため、全体の中でそれぞれの部分がどのような役割をしているのかを押さえておくことが大切。全体を合わせた時、一つの楽曲としてのまとまりが生まれる。
- 人間関係も考慮してグループ編成を考えると「どこの部分も好き」という思いをもたせておくとうい。